

新潟県SNS教育プログラム

(高等学校編；三訂版)



令和3年3月

新潟県教育委員会

はじめに

県教育委員会では、生徒を取り巻く社会環境の変化や、県内外での不適切な SNS への投稿事案などを踏まえ、SNS の適正利用に係るプログラムを作成してきました。

令和 2 年度から、全ての県立高等学校、中等教育学校において、他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて児童生徒が考えを深めることをねらいとして「新潟県 SNS 教育プログラム（高等学校編：改訂版）」を活用した授業を実践していただいたところです。

また、1 校の研究指定校が「新潟県 SNS 教育プログラム」を基に授業を行い、その効果を検証していただきました。県教育委員会は、研究指定校の検証を踏まえ、「新潟県 SNS 教育プログラム」（三訂版）をこのほど作成しました。

令和 2 年 1 月 30 日に提出された第三者委員会 4 号案件の調査報告書では、「インターネット上のいじめに対する理解と情報モラル教育の推進」が提言の一つとして示されています。このことを踏まえ、各学校においては、本プログラムを有効に活用していただき、児童生徒が社会の一員としてインターネットを適切に活用できる力と態度を育成していただければ幸いです。

令和 3 年 3 月

いじめ対策等検討会議

新潟県教育委員会

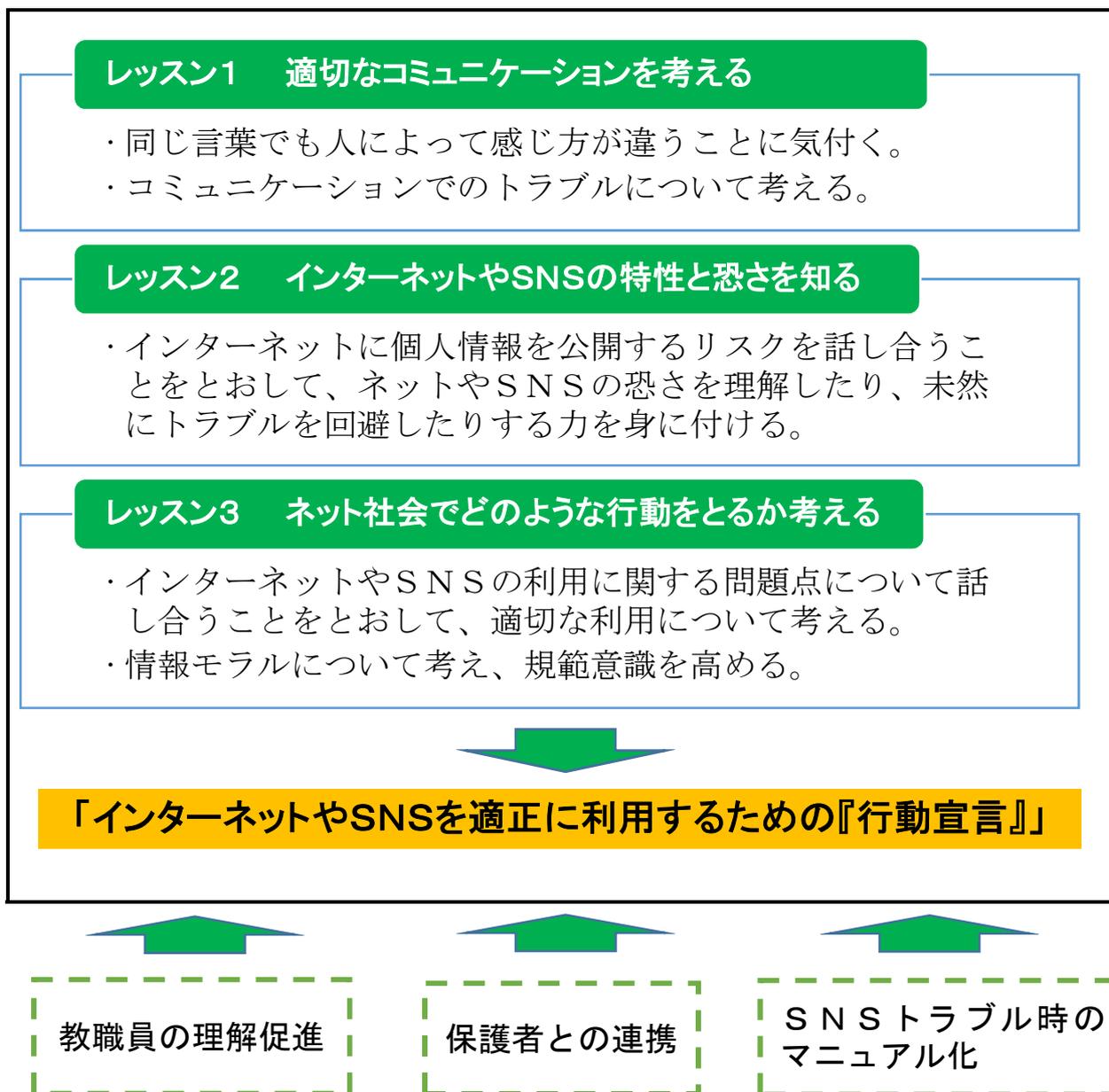
目 次

新潟県SNS教育プログラムにおける目標と構成	2
新潟県SNS教育プログラムを実施するにあたって	4
指導例1 レッスン1 学習指導案	5
ワークシート	8
レッスン2 学習指導案	10
ワークシート	13
レッスン3 学習指導案	15
事例カード	17
ワークシート	18
指導例2 レッスン1 学習指導案	20
ワークシート	23
レッスン2 学習指導案	25
ワークシート	28
レッスン3 学習指導案	30
ワークシート	33
補助資料	35
指導例2 授業スライド	37
「インターネットやSNSを適正に利用するための 『行動宣言』」の作成について	40

新潟県SNS教育プログラムにおける目標

- ① インターネットやSNSの問題について自分のこととして考えたり話し合ったりする活動をとおして、「相手の立場を考える」「先のことを考える」力を身に付ける。
- ② 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を生徒が主体的に考えることにより、自分たちでインターネットやSNSの問題に気づき、トラブルを回避する力を身に付ける。

◇新潟県SNS教育プログラムの構成（指導例1）



※ 指導例1では、話し合い活動で自他の違いを意識化させることで目標達成を目指している。

◇新潟県SNS教育プログラムの構成（指導例2）

レッスン1 適切なコミュニケーションを考える

- ・テキストコミュニケーションの特性や注意する点などについて気付く。

レッスン2 SNSを投稿する前に考えること

- ・インターネットやSNS等のリスクを見積もり、人によって受け取り方が異なることに気付く。
- ・投稿する際に様々な状況を推察し、自らの行動が適切であるかを考える。

レッスン3 ネット社会でどのような行動をとるか考える

- ・情報モラルについて話し合うことをとおして、インターネットやSNSの適正利用のためのソーシャルメディア・ガイドラインを決める。

「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」

教職員の理解促進

保護者との連携

SNSトラブル時の
マニュアル化

※ 指導例2では、テキストコミュニケーション（文字のみのコミュニケーション）の特性を意識化させることで目標達成を目指している。

○ 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」とは、
安心・安全に楽しくインターネットやSNSを利用するために、何を大切にしなければならないのか、その考え方や行動の在り方を具体的な目標として示すものです。

新潟県SNS教育プログラムを実施するにあたって

1. 生徒が在学中の早い時期に3つのレッスンを実施する。1年生で3つのレッスンの実施、あるいは、1年生でレッスン1及び2、2年生前半でレッスン3を実施する。
2. ホームルーム担任による実施を基本とする。
3. 本プログラムで示す「指導例1」及び「指導例2」を参考に、各学校・各クラスの生徒の実態に合わせて工夫して実施する。
4. 授業案やワークシート等は「新潟県いじめ対策ポータル」に掲載しており、適宜ダウンロードして使用することができる。
5. 実際のコミュニケーションにおいてはトラブルがつきものであり、その対応には1つの答えがあるわけではないことを踏まえ、生徒間で最適解を求めるなどの話し合いを中心に授業を行う。
6. インターネットの特性を説明した絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」は、繰り返し読むことで気付きを促すことをねらいとして作成されたものであることを踏まえ、適宜活用する。
7. 本プログラムでは、日々進化するインターネットやSNSの実態についての専門的な知識は扱わないこととし、それらについては教科「情報」での学習や専門家による講演等で補うものとする。
8. レッスン1から3までの実践を重ねることで、「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を作成・共有する。(詳細は40ページ参照)

指導例 1

SNS教育プログラム レッスン1 学習指導案

1 単元名 適切なコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

- (1) 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- (2) コミュニケーションにおける危険に気づき、話し合うことをとおして適切なコミュニケーションについて考える。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を確認する。 ・ 授業の評価項目について生徒と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に、以下の内容が記載されたカードを全員に配付しておく。 <ol style="list-style-type: none"> ①「まじめだね」 ②「おとなしいね」 ③「一生懸命だね」 ④「個性的だね」 ⑤「マイペースだね」
	指示：5枚のカードうち、自分が言われて嫌だと感じる順に、並べ替えましょう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ワークとして上記の課題に取り組む。 ・ 4人程度の班に分かれ、班の中で自分の考えを表現し、グループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の考えを頭ごなしに否定せず、まずは受容して聞くことを意識させる。 ・ 感じ方は人によって違い、正解があるわけではないことを伝える。
展開1 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントの事例を基に、SNSでのトラブルについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを配付する。
	発問：Cさんのしたことの何が問題だったのでしょう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ワークとして上記の課題に取り組む。 ・ グループ内で自分の考えを表現し、グループで共有する。話し合った内容は、プリントにメモする。 ・ グループで話し合ったことを、クラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単に自分の考えの伝達のみにも陥ることなく、相手の考えに対する賛同、反対などが出し合えるようにする。 ・ 共通点、相違点などを整理する。

指導例 1

展開 2 (20 分)	・絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」を読む。	
	発問：SNS を利用する際、何に注意するとよいでしょうか。	
	・個人ワークとして上記の課題に取り組む。 ・班の中で自分の考えを表現し、グループで共有する。 ・グループで話し合ったことを、クラスで共有する。	・インターネットの利用においては、その特性を理解し、責任ある行動をとることが重要であることを伝える。 ・他者の考えに触れることでそれぞれの生徒の考えを深める。
まとめ (5 分)	・感想の記入前に、もう一度授業のねらいを確認し、振り返る。 ・感想の記入、授業の自己評価を行う。	・インターネットやSNS を利用している中で困ったことがあれば自分一人で抱え込まず、相談するよう伝える。

- 4 教材 絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」
カード教材「自分と相手のちがひ」
※出典：「SNS ノート（情報モラル編）」26 ページ（LINE 株式会社）
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>
事例プリント

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ・全 3 回のプログラムの 1 回目であり、他人の考え方に違いがあることに気付かせ、コミュニケーションの難しさや望ましいあり方について考えさせることを主眼としている。
- ・題材だけでなく、グループでの活動そのものが、望ましいコミュニケーションの在り方を模索させるという本時のねらいと直結している。

(2) 基本的なスタンス

- ・個人ワーク、グループワークを進めるなかで、発問に対する解答を探すことにこだわるあまり、他の生徒の意見を否定的に捉えてしまうことのないよう、ワークシートに記載されている「授業の評価」を適宜確認する。

(3) 工夫するとよい点

- ・カード教材は生徒を引き付けるのに有効である。しかし、生徒人数分のカードを印刷するには周到な準備が必要である。
- ・事例のストーリーと登場人物は学習用に典型化されているが、実際に起きがちな事例でもある。生徒一人一人が自分のこととして考えることができる反

指導例 1

- 面、自分の経験と照らし合わせ、事例の登場人物への感情的な批判に終始しないよう、グループ内での議論では教員が必要に応じて助言を与えるとよい。
- ・生徒の作業内容が多いので、クラスの実態に合わせて、ワークを精選するとよい。

インターネットやSNSの適切な利用について ～ 適切なコミュニケーションとは ～

() 組 () 番 氏名 ()

【授業のねらい】

- 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- コミュニケーションにおける危険に気付き、適切なコミュニケーションについて考える。

【ワーク1】 ～ 自分が嫌だと感じることは？ ～

カードの番号を以下の欄に入れましょう。

--	--	--	--	--

← 嫌だ！

嫌ではない →

他の人のカード番号の順序も以下の欄に入れましょう。

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

それぞれ、どのよう
に感じたのか、
話し合ってみま
しょう！



他の人の考えで、なるほど！もしくは、自分とは違うな！
と思ったこと、気付いたこと等を書きましょう。

--

【ワーク2】 ～ この事例の問題点は何だろう？ ～

高校1年生のCさんは、部活動と勉強との両立で悩んでいました。そんなときに、同じ部活動で隣のクラスのDさんから「理想が高すぎ、気にしすぎ」と言われ、もやもやした気持ちで帰りました。

その夜、Cさんは、クラスの友だちで作ったSNSのグループに、軽い気持ちでDさんに対する不満を書きました。すると、他の友だちからも「私もカチンとくることがあるんだよね」というコメントが返ってきました。それを見たCさんは、さらにDさんに対する中傷や文句を書きました。その後、Dさんに対する中傷や文句に加わる人が増え、その勢いにCさんは「まずいことになった」と思いましたが、止める勇気はありませんでした。

翌日、このグループの中の一人が、Dさんが非難されていたということDさんに話しました。それを聞いたDさんは、強いショックを受け、同じ部活動仲間のCさんから裏切られた気持ちになりました。

問1：Cさんの良くなかったところは、どういったところでしょうか。

問2：Dさんを傷付けてしまったことを後悔したCさんは、Dさんに謝りたいと考えていますが、
どうしたらいいか迷っています。あなたがCさんなら、どうしますか？
どちらかに○をつけて理由も書いてみましょう。

(SNS上のメッセージで謝る ・ 直接会って話す)
理由は、



【ワーク3】 ～ SNS を利用する際、注意すべきことは？ ～

自分の考えを書きましょう。

グループで話し合った内容を書きましょう。

【授業の評価】

本日の授業を振り返り、以下の3項目について自己評価をしましょう。

- 課題に対して、自ら主体的に取り組み、意欲的に他者と話し合った。
〔 できた ・ ややできた ・ あまりできなかった ・ できなかった 〕

- インターネットやSNSの特性や恐さを理解し、危険を予測して行動できる。
〔 そう思う ・ ややそう思う ・ あまりそう思わない ・ 思わない 〕

- 他者の考えを認めながら自分の考えを表現できた。
〔 できた ・ ややできた ・ あまりできなかった ・ できなかった 〕

【感想の記入】 ～実際の生活に活かしたいことはありましたか？～

指導例 1

SNS教育プログラム レッスン2 学習指導案

1 単元名 インターネットやSNSの特性と恐さを知る

2 本時のねらい

- (1) 安易にインターネット上に個人情報を公開することによるリスクを話し合うことをとおして、インターネットやSNSの特性と恐さを理解する。
- (2) インターネット上の投稿が及ぼす影響について話し合うことをとおして、未然にトラブルを回避する力を身に付ける。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>指示：あなたなら、どの写真がネットに公開すると問題だと思いますか？ 問題だと思う順番に並べましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークとして上記の課題に取り組む。 ・3～5人の班に分かれ、班の中で考えを話し合う。 ・それぞれの写真の問題点について気付いたことをクラスで発表する。 <p>※班の中で順番に並べたものを見て、どこが公開の可否の境界となるかを話し合ってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、5枚のカード教材とワークシートを配付しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネット上に公開してよい、悪い、の基準が個人によって違うことに気付かせる。そのため、自分の判断での投稿はトラブルになりうることも理解させる。 <p>※問題がないか考える視点の例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：仲間以外を撮影 2：参加していない人がいないか 3：個人の部屋の様子がわかる 4：5番のカードと同じスマートフォンのため、個人が特定される可能性 5：人間関係の特定、他人の家の前
展開1 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールライフサポートブック 16 ページのトラブル事例①について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問：Aさんはどのようなトラブルに巻き込まれると思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークとして上記の課題に取り組んだ後、班の中で考えを話し合う。 ・班で話し合った内容をクラスで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合った内容は、ワークシートにメモするよう伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで発表された内容は、ワークシートにメモするよう伝える。

指導例 1

展開 2 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> サポートブック 17 ページのトラブル事例②について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合った内容は、ワークシートにメモするよう伝える。
	<p>発問：Bさんの投稿により起こりうることにはどんなことがあるでしょうか。</p>	
まとめ (8 分)	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えたことをワークシートに記入した後、班の中で考えを話し合う。 班で話し合った内容をクラスで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスで発表された内容は、ワークシートにメモするよう伝える。 写真や動画の投稿によって、個人が特定され得ることを説明する。
	<ul style="list-style-type: none"> もう一度授業のねらいを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> サポートブック 16、17 ページを参考に補足説明を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことをワークシートに記入する。 授業の自己評価を行う。 	<p>(SNSを使用することとは、世界へ発信することになり、情報がどこかに残ってしまうこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットやSNSを利用している中で困ったことがあれば、自分一人で抱え込まず、相談するよう伝える。

- 4 教材 カード教材「写真を公開する前に」
 ※出典：「SNSノート（情報モラル編）」24 ページ（LINE株式会社）
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>
 ワークシート
 マイスクールライフサポートブック

5 実践するにあたって

(1) 概要

- プログラム 2 回目の授業では、SNS やインターネットの特性と恐さを知識として理解し、その危険性をわがこととして実感することにねらいを置いている。グループ活動そのものが授業のねらいに直結していた第 1 回とはこの点が異なり、正しい理解を促すための教員のサポートが大切となる。

(2) 基本的なスタンス

- 5 枚のカードを見て問題がないかを考えさせる際には、正解を見つけるというよ

指導例 1

りは、危険と思われることや抱いた違和感を数多くあげることにより力点を置く。数が多いほど、公開の可否となる境界に生徒が自ら気づきやすくなる。

- ・ 教員は生徒が挙げた例を適切に取り上げ、グループでの議論が円滑に進むようにサポートする。

(3) 工夫するとよい点

- ・ カード教材では、「自分が公開してよいものと、そうでないもの」に区別する方法もある。こうすると、その後の考察や発表が行いやすい。
- ・ 「危険性くらいわかってる」という生徒の反応も予想される。事前にグループのメンバー構成に配慮するとよい。

インターネットやSNSの特性と恐さを知る

() 組 () 番 氏名 ()

【授業のねらい】

- インターネット上に個人情報を公開することによるリスクについて話し合うことをとおして、SNSのトラブルを回避するための注意点に気付くことができる。

【ワーク1】

あなたなら、どの写真がネットに公開されると問題だと思いますか？

問題だと思う順番にカードを並べましょう。

カードの番号を以下の欄に入れましょう。

--	--	--	--	--

←問題がある！

問題はない→

(理由)

気付いたこと（他の人の考えで、なるほど！または、自分とは違うな！と思ったこと）

【ワーク2】

Aさんの事例について、Aさんはどのようなトラブルに巻き込まれると思いますか。

自分の考えを書きましょう。

グループで話し合った内容を書きましょう。

【ワーク3】

Bさんの投稿により起こりうることにはどんなことがあるでしょうか。

自分の考えを書きましょう。

グループで話し合った内容を書きましょう。

～SNSを利用する際、どんなことに注意すると良いでしょうか。～

【授業の評価】

本日の授業を振り返り、以下の4項目について自己評価をしましょう。

- A：よくできた
 - B：まあまあできた
 - C：あまりできなかった
 - D：全然できなかった

- 課題に対して主体的に取り組み、意欲的に他者と話し合った。(A・B・C・D)
【関心・意欲・態度】

- 写真をインターネットに投稿する際に気をつけるべき点について理解し、人によって公開してもよいと感じる写真が異なることに気付くことができた。(A・B・C・D)
【知識・理解】

- 安易なインターネットの使用が自分だけでなく周囲にも影響を及ぼすことを理解し、インターネットやSNSの特性と恐さに気付くことができた。(A・B・C・D)
【知識・理解】

- 他者の考えを受容し、取り入れながら自分の考えをまとめることができた。(A・B・C・D)
【思考・判断・表現】

指導例 1

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 ネット社会でどのような行動をとるか考える

2 本時のねらい

- (1) インターネットやSNSの利用に関する問題点について話し合うことをとおし、適切な利用方法について考えることができる。
- (2) 情報モラルの必要性を自分たちで考え、守ろうとする規範意識を高める。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のねらいを確認する。 ・ 4人のグループを10班作る。 ・ 教材「デジタルネイティブの君たちへ」を読み、Aさん、Bさん、Cさんの事例の課題を話し合い、共通する課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の他者の考えについて、こまめにメモをとるように伝える。 ・ これまで学んだインターネットの特性（公開性、記録の継続性、文字によるコミュニケーションに頼っていること、匿名ではないことなど）について確認する。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの班で共通の事例が記されている「相談対応シート」を受け取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班にトラブル事例が記された「相談対応シート」を配付する。（シートに記されている事例は班毎に異なる。）
	<p>指示：シートに記載してあるSNSトラブルについて相談を受けたら、どのように答えたら良いかをグループで考え、「相談対応シート」に記入しよう。</p>	
	<p>(話し合い活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい5人のグループに分かれ、それぞれのグループで話し合った事例への対応を発表する。発表の内容について、ワークシートにメモをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①～⑩の10個の事例のうち、クラスによって事例を分けてもよい。 例) 1組は事例①～⑤を扱い、2組は事例⑥～⑩を扱う。 ・ スムースに新たなグループが作れるよう、各グループメンバーに番号を付けておくなど、工夫をする。 ・ 授業はティーム・ティーチングで実施し、人前で話すことが苦手な生徒の意見も共有できるように支援を行う。

指導例 1

まとめ (15分)	発問：SNSの利用において、お互いにどんなことに注意するとよいでしょうか。	
	<ul style="list-style-type: none">・上記課題について班の中で話し合い、ワークシートに記入する。・クラス全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none">・出された意見に対して肯定的なフィードバックを行う。・最後に次の3点を確認する。<ol style="list-style-type: none">① 相手のことを想像した対応が大切であること② 自分の行動に責任をもつこと③ 適切な利用について自分たちで考えることが大切であること

- 4 教材 絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」
「事例カード」「相談対応シート」
ワークシート

5 本時後の指導

授業後に、「相談対応シート」を廊下に掲示するなどして、他のクラスの相談対応シートを共有することで、この相談対応シートと、レッスン1・2の授業内容の成果を活用して、「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を生徒が主体的に作成する。以上の活動をとおして、自分たちでインターネットやSNSの問題に気づき、トラブルを回避する力を身に付けさせる。

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・本時の授業はレッスン3としての位置付けだが、今後「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を生徒が主体的に作成することを目指している。そのために、生徒が情報モラルの必要性を自ら感じ取り、主体的に行動していけるよう、生徒に今後の行動を投げかけるような授業のまとめ方ができるとよい。

(2) 基本的なスタンス

- ・導入部での「共通する課題」をうまく見つけられないグループがある場合は、事例A、B、Cそれぞれの個別の課題を先にあげさせるなど、グループワークを円滑に進めるために、教員が適切に働きかける。
- ・発表活動では、生徒が積極的に意見を述べるとともに、他の人の意見にしっかりと耳を傾ける雰囲気を醸成できるよう、教員が適宜働きかける。

(3) 工夫するとよい点

- ・作業内容とプリントの量が多いため、生徒の実態に応じて教材を精選するとよい。
- ・似たようなトラブルを経験した生徒への配慮が必要である。

事例カード

<p>① 学校の休み時間に面白い動画が取れたので、動画投稿サイトに投稿しようと思う。マスク姿で顔が分からないから大丈夫だよ。</p>	<p>② 片思いしている人が、交際相手との写真を SNS で公開をしていた。別れて欲しいので、交際相手の悪口をコメントしようかな。</p>
<p>③ 辛いときに SNS で知り合った人が話を聞いてくれた。今度、会って話をしてくれるというけれど、会いに行こうと思う。</p>	<p>④ SNS で辛いことを吐き出している。鍵付きアカウントだから、実名で投稿してもいいよね。</p>
<p>⑤ SNS のグループで話していると、特定の人だけが既読するだけで発言をしない。グループから外してもいいよね。</p>	<p>⑥ クラス全員の LINE グループで一人だけ誘ってない人がいるんだけど、LINE とかに興味がなさそうだから問題ないよね。</p>
<p>⑦ SNS で話をしていると、話の止め時が分からず眠れない。既読スルーで相手に不快な思いをさせたくないけれど、どうしたらいいかな。</p>	<p>⑧ お小遣いが少なく、欲しい服が買えない。SNS でご飯を一緒に食べてくれるだけでお金をくれる人がいた。別にご飯だけならいいよね。</p>
<p>⑨ ネットのゲームを楽しんでいる。オフ会をしようと提案されたけれど、親は「危ないから会っちゃダメ」と理解してくれない。どうしたらいいかな。</p>	<p>⑩ 友達に嫌なことされたから、インスタグラムに愚痴や悪口を書いちゃったんだけど、相手が分からないように書いたからいいよね。</p>

ネット社会でどのような行動をとるか考える

() 組 () 番 氏名 ()

【授業のねらい】

- インターネットやSNSの利用に関する問題点について話し合うことをとおし、適切な利用方法について考えることができる。
- 情報モラルの必要性を自分たちで考え、守ろうとする規範意識を高める。

【ワーク1】

Aさん、Bさん、Cさんの事例に共通する課題は何だろう。

(メモ欄)

【ワーク2】

- ① 各班に配付される「相談対応シート」に記載してある事例について話し合う。
- ② 他の事例への対応について、他者の話を聞いて以下に記入する。

事例 ()	事例 ()
事例 ()	事例 ()

【ワーク3】

SNSを利用する際、お互いにどんなことに注意すると良いでしょうか。

(メモ欄)

相談対応シート

()組()番 氏名()

※この欄に事例①～⑩のうち、いずれか1つの事例が記入された状態で生徒へ配付します。
各グループで1つの事例を話し合います。

(例) 1・3組は事例①～⑤、2・4組は事例⑥～⑩を扱います。

カードに書かれた相談について、どのように答えますか。グループで話し合おう。

<メモ>グループで話し合ったことをメモしよう。

<どのように対応するか>相手にわかりやすく、理由も付けて書いてみよう。

指導例 2

SNS教育プログラム レッスン1 学習指導案

1 単元名 適切なコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

他者と自分との考え方や感じ方には違い(ズレ)があることに気付き、その違いを踏まえたコミュニケーションが大切であることを理解する。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	<p><スライド1、2、3、4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを確認する。 <p>・班分け、各班での役割(進行、発表係)決めを行う。</p> <p><スライド5、6></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全プログラム3回のうちの1回目であるため、【はじめに】を読み、当該プログラムの目的を理解する。 ・1班5～6人程度(少ないと違いが明確に表れない。)
	<p>アイスブレーキング(グループ活動による)</p> <p>Q「夜遅い時間といえは何時？」</p>	
展開 (30分)	<p>ワークシート、無地のカードを配付する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動のルール(4つの約束)を説明し、他の班員の意見を否定、批判せずに受容することを確認する。
	<p>発問1: 言われて嫌な言葉を選びましょう。また、その理由を考えましょう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で言われて嫌な言葉を選ぶ。その後、グループやクラスで他の生徒の考えとの違いを確認する。 ・言われて嫌な言葉等が、それぞれ違うことを理解し、友人との感覚のズレを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表させた後、クラス全体を集約し、感覚のズレに気付かせる。 ・感覚のズレに気付かないままテキストコミュニケーションを続けることが、トラブルにつながることに気付かせる。

指導例 2

	<p><スライド7、8></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問2:「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション(テキストコミュニケーション)」の違いを考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに違いを書く。 ・SNS上のコミュニケーションではどのようなことに注意しなければならないかを考える。 ・「テキストコミュニケーション」の特性についてグループ内で発表し合い、ワークシートに記述する。 ・グループ内で考えを共有する。発表係は結果を発表する。 <p><予想される生徒の記述></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰とでもつながる ・一瞬で伝わる ・真意が伝わらず誤解されることもある ・データが残る ・画像などを使える 等々 <p><スライド9></p> <p>「メラビアンの法則」について説明する。(コミュニケーションは言語情報だけでなく、非言語情報も非常に重要である。「何を言うか」も大事だが、それを「どう言うか」「どういう態度で」ということはさらに重要であると確認する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「直接コミュニケーション」と「テキストコミュニケーション」について説明し、SNS上のコミュニケーションはテキストコミュニケーションであることを確認する。 ・それぞれのコミュニケーションのメリット、デメリットを考慮することで違いが明確になることを説明する。 <p>※生徒の発言は、板書する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは言語情報だけでなく、非言語情報(表情やしぐさ、声のトーンや大きさ等)も非常に重要であることに気付かせる。 ・個人個人で感じ方の違い(ズレ)があることに加え、テキストコミュニケーションは直接コミュニケーションよりもトラブルが起きやすい要素が多いことを説明する。
<p>まとめ (10分)</p>	<p><スライド10></p> <p>ワーク①、ワーク②を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と自分との考え方や感じ方には違い(ズレ)があること。 ・テキストコミュニケーションは直接コミュニケーションよりも誤解が生じやすくトラブルになる要素が多いことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS上のコミュニケーションでは、ネットの特性を理解し、更に自分の言動がどんな結果をもたらすかを想像し、適切に判断できる力を養うことが重要であることを理解させる。

指導例 2

5 実践するにあたって

(1) 概要

①言われて嫌な言葉やされて嫌なことが自分と必ずしも同じではないことを体験させ、「感覚のズレ」がSNS等を利用して起こるトラブルの一因であることを理解させる。

②ネットでのコミュニケーションはテキストコミュニケーションがほとんどであり、「メラビアンの法則」を紹介し、通常のコミュニケーションとの違いを理解させる。

○ テキストコミュニケーション

・・・文字のみによるコミュニケーション

○ メラビアンの法則

・・・感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき、人の受けとめ方に及ぼす影響の大きさについての実験結果。話の内容などの言語情報が7%、口調や話の早さなどの聴覚情報が38%、見た目などの視覚情報が55%の割合であった。

(2) 基本的なスタンス

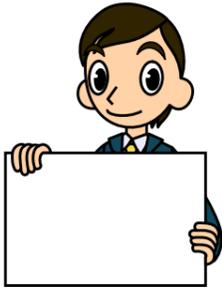
- ・ SNS教育プログラムでは、機械技術、利用技術、法律等を教えるのではなく、コミュニケーション指導が中心であるという共通認識をもって実施する。
- ・ SNSやスマートフォンを使わせないということを前提としない。
- ・ 「感覚のズレ」という言葉をキーワードとして用いる。

(3) 工夫するとよい点

- ・ 「言われて嫌な言葉」については、挙手をすることで、「感覚のズレ」を視覚的に伝えることになる。ただし、その際、少数意見へのフォローが大切である。
- ・ SNSを活用するうえで、安全性を高めるために注意することについては、次の点が考えられたかを確認する。
 - ・ 投稿により自分自身が伝わるものである。
 - ・ SNSやインターネットの技術が進化する中では、リスク等は想像を超える場合もある。
 - ・ 生徒によってSNSの使い方が異なり、それがトラブルの元にもなり得る。
- ・ 分からせることよりも実感させることが大切。教え込もうとしなくてもよい。
- ・ SNSやインターネットで困っていることがあれば、相談に乗ることを伝え、一緒に考えていく姿勢を伝える。
- ・ SNSに関して保護者とどのように話してきたかを確認してもよい。

「適切なコミュニケーションを考える」ワークシート

年 組 番 氏名 _____



【グループワークの進め方】

- ① 5～6人程度のグループを作る
- ② 進行係、発表係を決める
- ③ 左の絵のボードに役割（進行・発表）を記入する

【ワーク①】

Q あなたが、クラスの友だちから直接言われて「いやだな」と感じる言葉を一つ選んでカードにその言葉を書いてください。

① _____人 まじめだね	② _____人 おとなしいね	③ _____人 一生懸命だね
④ _____人 個性的だね	⑤ _____人 マイペースだね	

① 「いやだな」と感じる理由を書きましょう。

その理由

- ② 進行係のかけ声で、全員一斉にカードを提示する。
- ③ 一人ずつ、選んだ理由を発表する。
- ④ 進行係は、班の意見を集計し、発表係は結果を発表する。
- ⑤ クラス全体を集計し、ワークシートのカードに記入しましょう。

【ワーク②】

Q 「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）」の違いを考えてみましょう。どちらかに○をつけてください。

違いがある ・ 違いがない

その理由

※それぞれのメリット、デメリットから違いを考えてみましょう。

〈対面での直接コミュニケーション〉

メリット ・ ・ ・ ・	デメリット ・ ・ ・ ・
--------------------------	---------------------------

〈ネット上のテキストコミュニケーション〉

メリット ・ ・ ・ ・	デメリット ・ ・ ・ ・
--------------------------	---------------------------

【まとめ】 今日授業の感想

指導例 2

SNS教育プログラム レッスン2 学習指導案

1 単元名 SNSを投稿する前に考えること

2 本時のねらい

SNSでのコミュニケーションを行う際に生じる相手との誤解や認識のズレに気付き、受け取る側の気持ちに配慮したコミュニケーションの在り方を考える。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	<p><スライド 11、12></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を確認する。 <p><スライド 13></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の2点を再確認する。 ①自分と他人の物事のとらえ方や感じ方には違い（感覚のズレ）があること。 ②ネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）は対面のコミュニケーションとは異なること
	<p>アイスブレイキング（グループ活動による）</p> <p>あなたが、クラスの友だちからされて「いやだな」と感じる順に番号をつけてみましょう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいである「リスクの見積もり」の準備として、SNS利用をテーマにアイスブレイクとしてグループ活動を行う。
展開 (30分)	<p><スライド 14、15></p> <p>リスクの見積りトレーニング（グループ活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付し、以下の問い掛け、説明を行う。
	<p>発問：ワークシートのSNSのやり取りを見て、その後を予想しよう。 また、その理由も考えよう。</p> <p>SNS上の会話</p> <p>ネット上のコミュニケーション(テキストコミュニケーション)を示した3つのケースにおいて、予想されるリスクをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループを作り、ワークシートのSNSでのやり取りを見て、まずは個人で考え、その後グループでその後の展開を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのケースの中からいくつかを選ばせるか、事前にどの班にどのケースを担当させるかを決めておいてもよい。 ・まず個人で考えさせ、その後4人グループで交流させる。 ・発表後にネット上に潜む様々なリスクを「情報モラル」と併せて確認しながら理解させるとよい。

指導例 2

	<p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションって難しい ・顔を見て話をした方が、気持ちが伝わりやすい ・テキストから判断するのは難しい ・結末は同じでも、理由が違う ・人によって価値観は違う <p>・直接話せていれば回避できるリスクでも、SNS上のやりとりでは、テンポが速いことに加え、短い文で、文字だけの会話になるため誤解や感じ方の違い(ズレ)が生じやすいことを再確認する。</p>	<p><指導のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図の誤解や認識のズレが生じることを気付かせる。 ・ネット上のコミュニケーションにおけるリスクを再確認する。 ・簡単にコピー、瞬時に拡散 ・個人情報特定される ・完全に消えない
<p>まとめ (10分)</p>	<p><スライド 16、17></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS 投稿前 Check を確認する。 <p>SNS 上でコミュニケーションを図る際に常に意識すべき 8 つのチェック項目を生徒に確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS 投稿前 Check を読み上げる。 <p><指導のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を利用する時には、投稿する前に、その投稿は「本当に問題ないか」自分で考えることが大切であること。 ・ 相手を思いやってコミュニケーションを図ることは重要なことであるが、一方でネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）の特性から、どんなに気を遣っても、トラブルは生じる可能性があることも理解させる。

- 4 教材 ワークシート「リスクの見積りトレーニング」
 ※出典：「SNSノート（情報モラル編）カード教材 こんなつもりじゃなかったのに」（LINE 株式会社）

5 実践するにあたって

(1) 概要

○ リスクの見積りトレーニング

- ・ 用意されている 3 つのケースすべてに取り組む必要はなく、グループ内でもっとも印象的なケースを選んで取り組ませるなど、生徒の実態に応じて柔軟に対応する。
- ・ テキストコミュニケーションと対面のコミュニケーションの違いについて、生徒が体験をとおして気付くことを促す。
- ・ 仮想の SNS でのやりとりをとおして、個人およびグループでその後のリスクを予想させ、トラブルにならないための方法の最適解を求めさせる。

指導例 2

(2) 基本的なスタンス

- ・ 一番大切なことは、生徒がSNSにおけるトラブルを自分のこととして捉えることだが、単に怖がらせて終わりでは効果的とはいえない。SNSトラブルは、自分の振る舞い方で予防、回避できることを理解させる。
- ・ したがって、リスクの見積りトレーニングでは、いずれのケースにおいても、トラブルになるという前提（もしくはトラブルの芽が潜んでいるという前提）で臨むことが必要である。

(3) 工夫するとよい点

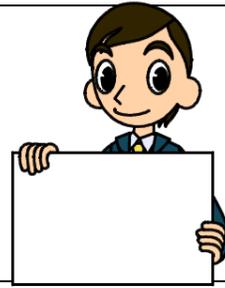
- ・ 意見を共有する時間を確保するとよい。
- ・ SNSに関して保護者とどのように話をしてきたかを確認してみてもよい。

「SNSを投稿する前に考えること」ワークシート

年 組 番 氏 名 _____

【グループワークの進め方】

- ① 5～6人程度のグループを作る
- ② 進行係、発表係を決める
- ③ 右の絵のボードに役割（進行・発表）を記入する

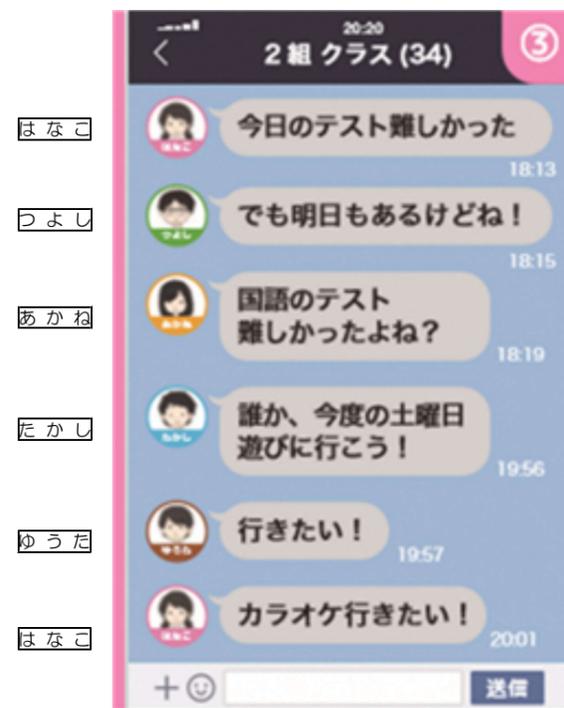


【 リスク見積もりトレーニング 】

Q 次の3つのケースについて、グループで話し合ってみよう

- ① まず、自分だけで予想されるリスクを①に書き出してみよう
- ② グループ内の、みんなの意見を聞いて②に書き込みましょう
- ③ 各グループの意見を発表係は発表する
- ④ 発表を聞いて、新たなリスクの発見があったら②に追加しよう

【 ケース1 】



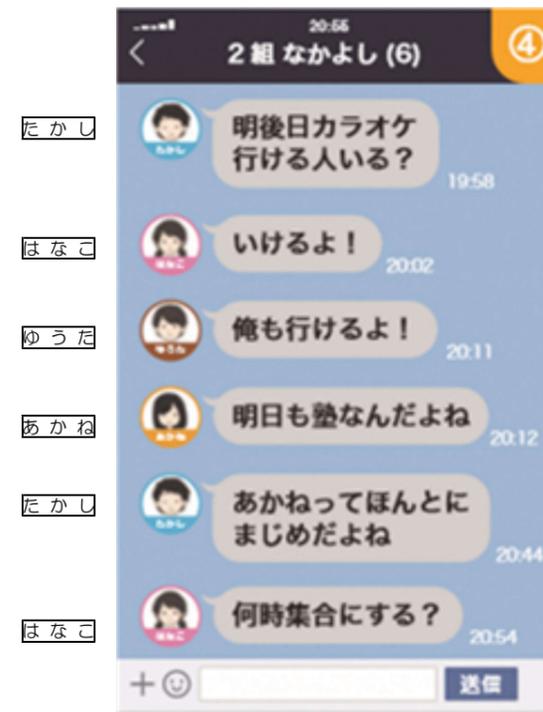
「予想されるリスクは？」

①自分の考え

②みんなの考え

※グループ構成メンバーや時間にも注目

【 ケース2 】



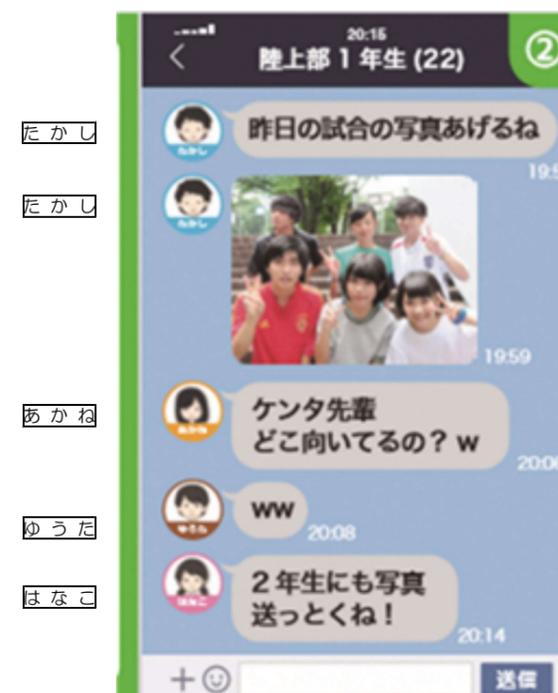
「予想されるリスクは？」

①自分の考え

②みんなの考え

※グループ構成メンバーや時間にも注目

【 ケース3 】



「予想されるリスクは？」

①自分の考え

②みんなの考え

※グループ構成メンバーや時間にも注目

指導例 2

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 SNSを利用する上でどのような行動をとるか考える

2 本時のねらい

「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を作成することをおして、適切にSNSを利用する態度を育てる。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	<p><スライド 18、19></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を確認する ・映像（2つ）を見る。 ○デジタルTATOO 	
	<p>指示1:映像が伝えようとしていること、作成された意図は何かについて話し合おう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで話し合われたことを黒板に書くなどして、クラス全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブルは、背景にネット全般についての理解と対策が必要である。情報リテラシーの見方・考え方の視点で整理ができるように支援する。
展開2 (30分)	<p><スライド 20、21></p>	
	<p>指示2:安心・安全にSNS等を利用するためのモラルやマナーを話し合おう。 「スマホ利用のルールを話し合ってみよう」</p>	
	<p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを提示する。(※別紙資料) ・ルールを考えるのではなく、モラルやマナーを考える時間であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールと、マナー、モラルとの違いを説明し、マナーやモラルを考える時間であることを確認する。 ルール：集団生活で守らなければならないこと マナー：相手を不快にさせないための行為 モラル：善悪の判断基準として振る舞うべき行動 ・「〇〇しない」といった否定表現ではなく、肯定表現を使い、トラブルや問題を回避するための方法や行動をアイデアとして出すように説明する。(※別紙資料) ・KJ法の進め方について簡潔に説明する。

指導例 2

	<ul style="list-style-type: none">・KJ法を使って、個人で考えたことをグループでまとめる。発表用シートに記入し、クラス内での発表に備える。・発表して、グループの内容を共有する。	<p><指導のポイント></p> <ul style="list-style-type: none">・ルールではなく、マナーやモラルを基にしたものとする。・みんなで力を合わせて取り組むことで効果が上がると思われること。
まとめ (10分)	<p><スライド 22、23></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>指示：各グループで考えたことを発表した後、クラスの「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」をまとめる。</p></div> <ul style="list-style-type: none">・グループから出された案をもとにして、クラスで「インターネットやSNSを適正に利用するための行動宣言」を考える。・授業の感想を記述する。	<ul style="list-style-type: none">・「行動宣言」を考えるにあたってはできる限り生徒の自主性に委ねるようにし、教員が無理に誘導することのないように配慮する。・「他律」と「自律」を説明し、SNSの利用においては一人ひとりが自分事として自覚し、自律を促す必要があることを強調する。 他律：他人の命令によって行動する 自律：常に自分の意思で判断しながら適切に行動する・様々なリスク要因に出会い、被害に遭うこともあれば、上手に対処できることもあること。それには「抑止」ということの気づきが大切であり、その視点を確認する。・困った時の相談窓口を紹介する。

4 教材

- ・映像教材「デジタル TATTOO」「言葉は弾丸にもなる」(公益社団法人ACジャパン)
- ・ワークシート

5 実践するにあたって

(1) 概要

①この授業は、ピア・サポートの応用である。生徒が協働して、予防や問題解決の知恵を出し、ピアサポーターとして、SNS等のトラブル問題に対して、相互の交流と協力を促しながら、「見つける」「気づく」「止める」「フォローする」といった行動に結びつくよう意識付けるものである。

※ピア(peer)は「仲間」、サポート(support)は「支える」という意味があり、同じような共通項と対等性をもつ人同士の支え合いを表す言葉。

指導例 2

②インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』は、1時間の授業で作成することは難しいものであるが、授業の中で、その基となる考えや意識を促すことを目標とする。

(2) 基本的なスタンス

- 「ネットを使わなければ危険はなくなる」という考えにならないよう、「禁止」ではなく「どう使うか」という視点で、積極的に、自分たちの課題としてとらえていこうという流れで取り組ませる。
- 生徒が役割をもって活動を進め、意見交流、合意形成など他者と関わることをとおして、生徒一人一人の「心の居場所」となることが大切である。
- 教師は、生徒一人一人の思いや考えを聞き出し、話合いに生かすよう支援する。

(3) 工夫するとよい点

<導入部>

- ・ 「情報に関する見方・考え方」を働かせるため、「ルール」「マナー」「モラル」の3つの観点のうち、焦点化したいねらいによって、導入で扱う教材と量を調整する。

<展開>

- ・ ブレインストーミング、KJ法などの手法を用いて、生徒が主体的に意見交流を進められるようにする。

○ブレインストーミング…集団でアイデアを出し合う手法

○KJ法…テーマに関するアイデアを出し、グループに分けて図解化し、アイデアをまとめる手法。気づかなかった問題やアイデアを発見することができる。
(模造紙、色分けをした付箋紙又はカード、マジックなどを使用する)

【Point】・目的(何を求めるのか)を明確に示す。

- ・ ルールを提示する。
- ・ 制限時間を設定する。

- ・ 振り返りの時間をしっかりと設定し、生徒が作成したものを認め、実践につなげるよう促すことが大切である。
- ・ 守らなければならない「規則」ということではなく、ピアサポーターとして実践していくことを確認する。
- ・ 「ルールをつくって終わり」ではなく、そのルールをどうすれば守ることができるのかという発想で、ルールを守るためのプロセスを取り入れる。
- ・ 個々の振り返りだけが行われることがないように、学級、学年、全校集会、便りで保護者に発信する等、定期的な振り返りの場面設定をし、相互の交流や協力を促す。

「SNSを利用する上での適切な行動を考える」ワークシート

年 組 番 氏名

【 ワーク 】

- 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」
～みんなで、安全・安心に気持ち良くSNSを利用するために出来ること～

① ネット・SNSの良い点・便利な点

青付箋



② ネットの特性やSNSでのコミュニケーションの特性

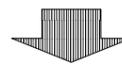
公開性、非匿名性、記録性、信ぴょう性、公共性、流出性、即時性、非対面性
拡散性、テキストコミュニケーション 等



③ ネット・SNSの危険な点・問題点

赤付箋

グループで話し合しましょう



④ 私たちのグループで決めたことは、

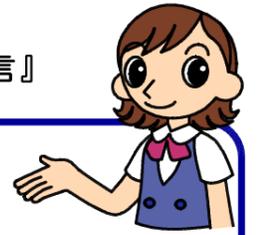
黄付箋

です。

決まったら、発表係は「発表用シート」にまとめて書いてください。

【 まとめ 】

クラスの
インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』



< 授業の感想 >

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

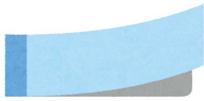
4つのルール

- ① 絶対に批判しない
- ② 自由に発言 (完全なアイディアの必要はなし)
- ③ 質より量を重視 (多くのアイディアを出す)
- ④ 千一ムでアイディアをつくる

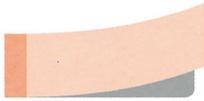
手順

1 1枚のカード（付箋）に1つアイデアを書きます

**2 思いつく自分のアイデアをたくさん書いてください
時間は〇分ずつです**



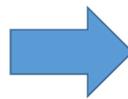
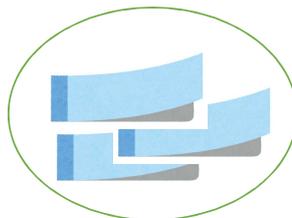
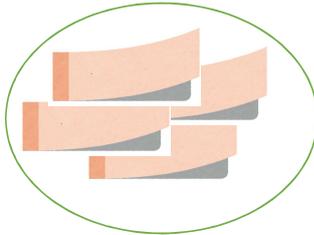
① ネット・SNS等の良い点（あお色）



② 危険な点・問題点（あか色）

**3 一人ずつアイデアを発表します
ワークシートにカードを並べていきましょう**

似ている内容は、重ねて小グループにまとめます。



シートに並べて
大きなグループに分類します。

4 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を考えよう



③ SNS等を適正に利用するための
モラル・マナー（黄色）

5 発表

適切なコミュニケーションを考える

レッスン1

ここでは、コミュニケーションのトラブルを防ぐための学習を、グループワークを通して行います。

ワークには、「一つの答え」があるわけではありません。自分たちで上手なネットコミュニケーションのあり方について、最適解を一緒に考えてみましょう。

レッスン1 【はじめに】

SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)は、スマートフォン、タブレット端末の普及にともない、とても身近な存在となっています。

SNSは、同時に多くの人に情報を発信できるなど、コミュニケーションツールとして、大変便利なものです。

【アイスブレイキング】

Q 「夜遅い時間」といえば何時？



カードに時間を書いて下さい。

「夜遅い時間」といえば・・・



同じような趣味などを持った人たちと交流することで自分の興味、関心を更に広げることができます。このように、SNSは適切な利用を心掛ければ、非常に有意義かつ楽しいツールとなります。

「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション」の違い

「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション(テキストコミュニケーション)」の違いを考えてみましょう。

「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション(テキストコミュニケーション)」の違いはありますか？

違いがある → 違いがない

そう考えた理由は・・・

そう考えた理由は・・・

「メラビアンの法則」

人がコミュニケーションを取るときには、その話の内容だけでなく、表情やしぐさ、声のトーンや大きさなどからも情報を得ています。



それによると、

- ◆ 「見た目/表情/しぐさ/視線など」の視覚情報が55%
- ◆ 「声のトーン/話す速さ/声の大きさ/口調など」の聴覚情報が38%
- ◆ 「話の内容など」の言語情報が7%

【 まとめと振り返り 】

- 同じ言葉・同じ行為でも、人によって感じ方が違うこと
- 文字だけで伝えるやりとりは、正確に感情まで伝わらないので、さらに誤解が生じやすいこと

- ◆ 発信するときは、
相手の立場で読み直し、自分の言いたいことが正しく伝わるか考えてみる
- ◆ 受け取ったときは、
相手が何を言いたいのが、相手の気持ちになっって考えることも大切

SNSを投稿する前に考えること

レッスン2

【 アイスブレーキング 】

あなたが、クラスの友だちからされて「いやだな」と感じる順にカードに番号をつけてみましょう。

- ① すぐに返信がこない
- ② なかなか会話が終わらない
- ③ 知らないところで自分の話題が出る
- ④ 話をしているときにスマホを触っている
- ⑤ 自分が一緒に写っている写真を公開される

例えば、 こんなことが起きたことはありませんか？

- SNSで、「友だちだし、ちよっとくらくらいじっても怒らないだろう」と思っていたら、相手が急に怒り出してしまった。
 - 「これをアップしても、別に誰も傷つかないだろう」と思っていたら実は友だちがとても落ち込んでしまった。
- というような、
“そんなつもりじゃなかったのに”という出来事。

SNSを利用し、投稿する前に上記のチェック項目を確認していますが、その投稿は “本当に投稿しても問題ありませんか”

SNS投稿前 Check

- 今から投稿する内容は、法令やモラルに反していませんか？
- 今から投稿する内容は、他人の権利を侵害していませんか？
- 今から投稿する情報や写真は、本当に全世界に公開しても構いませんか？
- 今から投稿する情報や写真は関係する人たちに公開することの承諾を得ましたか？
- 今から投稿する情報や写真は取り消すことができませんが、問題ありませんか？
- 今から投稿する情報や写真は、未来の友人に閲覧されても問題ありませんか？
- 今から投稿する内容は、本当に誤解を招きませんか？
- 今から投稿する内容は、あなたが守るべき守秘義務に反しませんか？

レッスン2 【はじめに】

前回のプログラムを通して学んだ「自分と他人の捉え方、感じ方の違い=感覚のズレ」を踏まえ、SNS上でのコミュニケーションのトラブルを防ぐための学習を、グループワークを通して行います。ワークには、一つ一つの答えがあるわけではありません。自分たちで上手なネットコミュニケーションのあり方について、最適解を一緒に考えてみましょう。

ケース1

「この写真、いいね！」「いいね！」「いいね！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

ケース2

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

ケース3

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

「おはようございます！」「おはようございます！」

“こんなつもりではなかったのに・・・”とほならないようにリスクに対する見直しトレーニングをしてみましょう。



※出典：「SNSノート（情報セキュリティ）カード教材 こんなつもりじゃなかったのに」（ONNI株式会社）

SNSを利用する上でどのような行動をとるか考える

レッスン3

レッスン3【はじめに】

これまでの学習を踏まえ、みなさんが「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を作成します。

ワークには「一つの答え」があるわけではありません。自分たちで、安全・安心な利用の仕方について、一緒に考えることが大切です。

「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」

「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」とは、安全・安心に楽しくインターネットやSNSを利用するために、何を大切にしなければならぬのか、その考え方や行動の在り方を生徒自らが具体的な目標として示すものです。

4つのルール

- ① **絶対に批判しない**
- ② **自由に発言** (完全なアイデアの必要はなし)
- ③ **質より量を重視** (多くのアイデアを出す)
- ④ **チームでアイデアをつくる**

【 まとめと振り返り 】

- SNS上でも直接コミュニケーションでも、常に相手のことを思いやることが大切。
- 安心・安全にインターネットやSNSを利用するためには、自分の意思で判断しながら適切に行動できることが重要。

困ったときには、「信頼できる大人に相談」してください。

手順

- 1 カード (付録) に1つアイデアを書き込みます。
- 2 思いつく自分のアイデアをたくさん書いてください。
時間は○分ずつです。
- 3 一人ずつアイデアを書き込みます。
カードを回っていきましょう。
取っている内容は、誰がどのグループにまともめます。
- 4 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を考えよう。



「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』 の作成について

- 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』とは、生徒が安全・安心に楽しくインターネットやSNSを利用するために、何を大切にしなければならないのか、その考え方と行動の在り方を生徒自らが具体的な目標として示すものです。
- 現実社会では、守るべき義務や心がけたい道徳がたくさんあります。同様に、インターネットの情報社会においても、ルールやモラル、マナーを守ることが大切です。
一人ひとりが適切に利用していくための利用モラル・マナーを話し合いによって決めることで、生徒自身が「自分でルールを守っていく力」を育てていくことをねらいとしています。
- 安全・安心なソーシャルメディア（SNS）等の利用のためには、自分自身で自覚して、制限することが大事ですが、個人の自覚だけでは上手くいかないこともあります。みんなで力を合わせて取り組むことで、トラブルを最小限に防ぐ効果も期待できます。

生徒が主体的に作成するための指導上の留意点

- 学校生活において校則を守り、社会に出て必要な道徳や法律を学ぶのと同じように、生徒自らがソーシャルメディアの利用方法について考え、学ぶ機会を設けること
- 自分の発言や発信が自分自身や他者の将来に重大な影響を及ぼす可能性があることに留意すること
- 自分の発言や発信を、投稿する前に読み直すように促すこと
- 保護者の理解や協力が重要であることから、保護者と連携した取組になるようにすること
- 自分の発言に責任をもち、誰かを傷つける発言が含まれていないか、発信する前に一度踏みとどまって考える心の余裕と知識を身に付けさせることを目的とすること
- 困ったり迷ったりした際は、助言を求めるように促すこと

○ 令和2年度 いじめ対策等検討会議委員

情報教育分野	(敬和学園大学教授)	一戸 信哉 (座長)
臨床心理分野	(新潟青陵大学教授)	本間 恵美子
教育心理学分野	(新潟大学教授)	松井 賢二
生徒指導分野	(新潟産業大学教授)	秋山 正道
保護者代表	(新潟県高等学校PTA連合会)	吉田 金豊
学校関係者	(三条市立一ノ木戸小学校長)	渡邊 芳久
学校関係者	(燕市立燕中学校長)	比後 慎一
学校関係者	(県立村松高等学校長)	須藤 浩
教育行政	(県教育庁義務教育課長)	佐藤 理仁
教育行政	(県教育庁高等学校教育課長)	長谷川 雅一
教育行政	(県教育庁生徒指導課長)	鈴木 勇二

○ 研究協力

令和2年度新潟県SNS教育プログラム研究指定校

県立三条商業高等学校

令和元年度新潟県SNS教育プログラム研究指定校

県立村上高等学校

県立新潟商業高等学校